

第2回 さいたま市地域経済活性化拠点整備協議会 会議録概要

開催日時：2020年1月22日（水）13:30~15:30

開催場所：さいたま市役所 議会棟 第5委員会室

出席者

矢口敦彦委員長、加曾利豊秋委員、胡桃澤美津子委員、小嶋文委員、齋藤英一委員、 須藤順子委員、中島マリ子委員、森川洋一委員、矢部達也委員
--

(敬称略)

前回協議事項の報告

<事務局からの説明内容>

- ・アンケートは、道の駅全体に対する利用目的等の設問はなくし、本市の道の駅に特化した設問を設定した。本市の道の駅に期待することとして、物販施設・飲食施設において具体的に取り扱いしてほしいものや飲食施設の形態を聞くこととした。
- ・アンケートの対象者の設定について、市外の方や70代まで含めた方が良いとの意見を頂いていたが、全体アンケートの対象者が市内の60代までとなっているため、前回提示の対象者で実施する。
- ・次年度に実施を予定している道の駅基本計画のパブリックコメントでは、今回対象とならなかった市外や70代以上の方も対象となるため、その際に意見を聴取する予定である。
- ・第1回協議会において、他の道の駅の事例視察の提案があったが、スケジュールと予算等の兼ね合いのため、今年度の実施は困難である。このため、次年度以降の実施可否について、引き続き、事務局で検討する。

拠点機能等に対する意見交換

① 防災施設

<事務局からの説明内容>

- ・近年、多発する自然災害等への対応や、国において道の駅の役割強化策が示され、防災道の駅の認定制度が開始されていることも踏まえ、地域経済活性化拠点においても防災機能の導入を予定している。
- ・防災倉庫の規模は、他の防災倉庫等の状況から 50 m²程度として設定している。本規模の防災倉庫の場合、380 人 3 日分の食糧や水等を備蓄できる規模と想定される。
- ・防災倉庫以外に防災機能として駐車場にヘリポートや帰宅困難者の一時避難等を想定している。
- ・周辺地域の避難所等との関係を踏まえて、どのような防災機能を導入すべきか庁内の関係課と協議を行う予定である。

<意見及び質問>

○防災倉庫の備考に記載している約 380 人分の食糧や水はどのように試算しているのか。坪数から算出しているのか、この地域にそれだけの人数分の備蓄量を確保しないとならないのか。

→防災倉庫の備蓄量は、他の備蓄倉庫の面積と備蓄量から算出している。そのため、利用者数から備蓄量を想定しているわけではない。

○地域の要望によって、防災倉庫の規模は変わるのか。

→本市では、各地域の避難場所や一時避難場所の整備を進めている。地域経済活性化拠点への防災倉庫設置の必要性や備蓄量等については、庁内関係課と検討する予定である。

○地域経済活性化拠点の防災倉庫は備蓄だけの機能になるのか。例えば、水害時のボートや機材等が考えられる。

→防災倉庫では、ボートや機材等の導入は想定していないが、要望があれば検討する。

◇自治会では、様々な形で防災に対する備蓄品は用意している。そのため、地域経済活性化拠点では地域や自治会の防災機能とは違う形で良い。例えば、帰宅困難者のための機能が考えられる。

◇国土交通省の話では、大きい災害があった際に東北自動車道の蓮田 SA と関越道の三芳 PA が防災拠点として利用されている。本市として、それを補完する機能を持たせる検討を行ってもよいと考えている。また、そこまでの規模や機能がなくても、市街地における災害発生時の活動拠点になれば、地域に貢献できる。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見

② 休憩施設

<事務局からの説明内容>

- ・道の駅には24時間利用が可能なトイレやベビーコーナーの設置が必要となる。
- ・トイレの便器数の算出根拠は、東日本高速道路株式会社の公衆便所標準規模資料を参考に「駐車台数が101台以上の場合」は、男性小便器20器、男性大便器7器、女性用27器、標準的な規模は230㎡となり、同様の個数、規模を想定している。
- ・多目的トイレは、別途2箇所程度の設置を想定している
- ・ベビーコーナーは、「赤ちゃん連れにやさしい空間づくりガイドブック」を参考に標準的規模を想定している。
- ・ドライバーの休憩スペースは、情報発信・展示スペース250㎡の中に80席程度のスペースの設置を想定している。

<意見及び質問>

- ◇多くの人々が利用する施設になるため、オストメイトの設置を検討してほしい。
- ◇サービスエリア等では、男性用トイレは空いているのに女性用トイレは混んでいることが多い。パークで男性と女性のトイレの使用時間をリサーチした際に女性は男性の3倍の時間が掛かることがわかった。そのため、使用者が心地よく使えるような状態になるように便器数を検討してほしい。
- 事例として、道の駅「いちかわ」では、トイレの壁が可動式となっており、平日と休日で利用者層や人数に応じて、トイレのレイアウトを変更することができる。そのため、便器数を増やすだけでなく、利便性の部分も含めて検討する。
- ◇トイレは道の駅の中で重要な機能である。ただ使用するだけでなく、パウダールームや更衣室等を用意することにより、利用者が立寄りきっかけとなることも考えられる。
- 道の駅は公共施設としての一面もあるため、費用面や機能の必要性を検討する。
- ◇岩槻ICが近い立地であるため、最後の休憩場所として利用されることが多く、トイレは重要な機能と考えられる。多くの人々が利用できるような便器数を検討してほしい。
- トイレの場所は1箇所であるのか。東北自動車道の佐野SA（下り）、久喜SA（上り）では、トイレは施設内と駐車場付近の2箇所ある。トイレが分散されていることにより、利用者も分散される効果がある。
- 休憩施設と地域振興施設にそれぞれトイレを設置する予定である。敷地面積が広いいため、今後、配置を検討する予定である。

【凡例】○：質問 →：回答 ◇：意見

◇車いす使用者は、多目的トイレだけではなく、通常より広い個室トイレがあれば利用できるということがある。また、今後、高齢化が進むと、今以上に車いす利用が増える可能性があるため、個室の大型化についても検討してほしい。

◇休憩施設について、一般の休憩場所とは別に観光バスの運転手や添乗員が休憩する場所を検討してほしい。道の駅の運営上、観光バスが立寄るような工夫の必要がある。

③ 情報発信施設

<事務局からの説明内容>

- ・情報発信スペースでは、道路及び地域に関する情報を提供する案内所や案内コーナーの設置が必要である。
- ・本市においては、環境技術産業の推進を掲げており、道路施設であることから環境産業技術のPRコーナーを、また交通の結節点として東日本連携の取組を実施していることから、東日本の地域資源の発信も付加価値機能として想定している。
- ・情報発信施設の規模は、駐車場規模が300台以上であるため、東日本高速道路株式会社の設計要領を参考に250㎡を想定している。

<意見及び質問>

◇直近に食肉中央卸売市場があり、食肉を売りとするのであれば、情報発信スペースの中で食育のPRについても検討してほしい。

◇他の道の駅の情報発信スペースでは、利用者が意識的に見に行くことは少ない。そのため、自然に情報発信スペースに行くような工夫を検討してほしい。例えば、利用されやすい施設の動線上に配置することが考えられる。

→地域経済活性化拠点としての道の駅として整備していく中で、建屋が分割する可能性があるため、情報発信スペースの配置や動線を検討する。

◇観光情報の発信も重要である。宮ヶ谷塔周辺には観光する場所があり、地域経済活性化拠点の利用者が周辺の観光場所に足を運ぶようになれば、地域の活性化にも繋がる。

◇他の施設にあるようなパンフレットだけを置く空間にはしないほしい。

◇ディズニーランドでは、駅を降りると、大きい地球のオブジェがあり、利用者が来たぞ、という意識付けになる。この地域経済活性化拠点においても、そのようなオブジェなどの工夫がほしい。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見

④ 調整池・緑地広場

<事務局からの説明内容>

- ・調整池は敷地面積に応じて埼玉県の水流出抑制施設の設置等に関する条例で定められているため、今後の機能・規模等の精査を基に、必要容積の算出を行う。
- ・安全対策を実施することにより、調整池の多面的利用が可能である。本市ではアーバンスポーツを推進しているため、多面的利用の一つとして記載している。
- ・緑地は、本市の緑化マニュアルにより敷地面積の25%の緑化が必要であるため、全体の敷地面積に応じて増減する。また、食肉市場との一体整備、連携を図ることから、BBQ広場を配置している。

<意見及び質問>

- ◇直近に春おか広場がある。この広場には1万7千㎡余の芝生広場やソフトボール場、花畑等あり、またこの広場を利用して過去に見沼区の防災訓練も行っていた。そのため、春おか広場と25%の緑化とをどのように関連付けるのか(開発エリアに入れるのかどうか)。地域経済活性化拠点と機能分担を検討してもよい。
- ◇緑地は気持ち良い空間にしてほしい。気持ち良い空間には自然と人が集まる。予算上の課題もあるが、花やイルミネーション等があるとより人が集まりやすい。
- ◇アーバンスポーツでは、外環自動車道の南浦和と蕨の間くらいの位置にあるゴリラ公園で利用されているが、この地域経済活性化拠点まで来るのか疑問はある。
- ◇調整池の面積が広くなる場合は、テニスコートやグランドゴルフ、ドックラン等の利用方法も考えられる。アーバンスポーツを行うために起伏をつけると調整池の容量確保の課題や維持管理費が多くなる可能性がある。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見

⑤ 駐車場

<事務局からの説明内容>

- ・駐車場は「H27 年度全国道路・街路交通情勢調査」の前面交通量を基に、立寄り率や平均駐車台数から駐車台数を算出している。小型車 280 台、大型バス 35 台、大型貨物車 70 台を想定している。
- ・面積は東日本高速道路株式会社の設計要領の基づき 24,300 m²としているが、前進駐車での駐車場計画とする必要があるため、今後の検討により駐車場面積は増加する見込みとなっている。
- ・身障者・妊婦用の屋根付き駐車場の設置も計画している。
- ・付加価値として、サイクリングコースが周辺にあることからシェアサイクル・モビリティポートの設置や、次世代自動車用エネルギーを平常時・災害時問わず供給可能なハイパーエネルギーステーションを想定している。
- ・帰宅困難者の一時避難として受け入れ、消防・自衛隊等の活動拠点としての利用、ヘリポートの設置等を想定している。

<意見及び質問>

- ◇駐車場は事故が発生しやすい場所である。他の施設や道の駅等の事故事例を参考にし、安全な駐車場を検討してほしい。
- ◇直近にサイクリングロードがあるため、シェアサイクル・モビリティポートだけでなく、自転車利用者のための駐輪施設も必要である。
- ◇駐車場のスペースはできる限り多くあった方がよい。現在、働き方改革によって大型車やトラックの休憩を取ることが義務になっているが、休憩場所がないことが課題となっている。地域経済活性化拠点は国道 16 号沿いで岩槻 IC が近いことから、多くの大型車やトラックのドライバーの利用が想定できる。
- ◇自動運転化が普及すると 1 台の大型車が複数台をけん引してくることが想定される。現在のところ、大型車とトレーラーの割合は不明であるが、駐車場のマスの規模や台数等を検討しなければならない。
- ◇駐車場に給油施設があってもよい。東日本大震災の支援物資を運搬する際に給油できる場所がなく、大変な思いをしたことがある。危険物の取扱があるので、注意しながら検討してほしい。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見

⑥ 物販施設

<事務局からの説明内容>

- ・物販施設の想定利用者数は、立地条件の類似している道の駅の事例を参考に設定しており、物販施設では年間80万人の利用を見込んでいる。
- ・面積は、本市で東日本連携の取組を推進していることから、東日本各地のアンテナショップ機能を加味し、2,060㎡を想定している。
- ・売りとなる機能としては、地元農産物、食肉市場で取り扱う加工肉等の販売を想定している。

<意見及び質問>

- ◇隣接の岩槻地区は農業が盛んであり、野菜以外にも植木や果樹を栽培している。また、当該地周辺では野菜や観光農園、シクラメンなど鉢物の花等も多く栽培している。地元農産物の販売は期待ができる。ただし、地域全体で高齢化が進んでいることやスマート農業の発展があるため、10年後の農業形態は変わっている可能性がある。
- ◇農産物を販売するときは、品揃えも重要である。道の駅「八王子滝山」では、JAのネットワークを使って品揃えを充実させている。地元農産物の販売も重要であるが、利用客のニーズに応えることも重要である。
- ◇東日本の都市のアンテナショップは、大宮駅の売り場のようなイメージになると良い。しかし、物価の違いや賃料が高くなりすぎないように考慮した方がよい。
- ◇物販施設の付加価値として、10年後に開設となるため、物販施設として新しいサービス（例えば、ドライブスルーや野菜の自販機等）が考えられる。
- ◇サービスエリアでは、コンビニエンスストアが参入している事例があり、利便性が向上している。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見

⑦ 飲食施設

<事務局からの説明内容>

- ・飲食施設ではフードコートと食肉市場の肉を活用した専門レストランを想定している。
- ・面積は、想定利用者数等を基に、フードコート 100 席 360 m²、レストラン 70 席 260 m²（厨房設備等を含む）を想定している。

<意見及び質問>

◇飲食施設は人気や流行によって客数が多く変わる。10 年後に開設となるので、不明な部分が多いが、時代のニーズは把握するようにしてほしい。

◇外国人や高齢者の人向けに、席に余裕を持たせて広めに設定してほしい。

◇この地域周辺には、レストラン等の飲食施設が少ない。地域の会合を行うことが大変な現状がある。そのため、宴会やお酒が提供できる施設があるとよい。

→道の駅の飲食施設で、アルコール類の提供は問題ない。物販施設の中でもお酒を販売している事例はある。

○飲食施設の一人当たりの単価はどの程度設定しているのか。運営上、単価は上げていくことは重要である。

→現在、他の道の駅を参考に算出している。物販施設は 1,700 円、フードコートは 700 円、レストランは 1300 円となっている。

◇フードコートやレストラン以外に気軽に立ち寄れ、テイクアウトができるカフェやベーカリーがあった方がよい。

◇ドックランを作るのであれば、それに関連してドッグカフェ（ペットと一緒に食事できる施設）を設置し、優良なドッグフードの販売等を検討してほしい。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見

⑧ 屋外施設・交流施設

<事務局からの説明内容>

- ・屋外施設のカレリアは屋根付き屋外スペースで、天候に左右されずイベントが実施できる。また、移動販売等の施設機能に捉われない運営ができることが想定される。
- ・カレリアの面積は、他の事例から同程度の規模の700㎡を想定している。
- ・交流施設の多目的交流スペースは、周辺住民の方やイベント時の利用など多くのシーンで利用されることが想定される。
- ・多目的交流スペースの規模は他の事例を参考に350㎡を想定している。
- ・交流施設の形態は、貸し会議室や調理室等があるが、どのような形態がいいか、また、部屋数の意見を頂きたい。
- ・キッズスペースは、本市は子育て世帯も多く、多様な世代の利用を想定している。
- ・キッズスペースの規模は、他の事例を参考に300㎡を想定している。
- ・キッズスペースの付加価値として一時預かりを当初想定したが、滞在時間が20分程度であり、保育士確保等の課題もあるため、導入は見送ることとして考えている。

<意見及び質問>

- ◇カレリアは雨天時や炎天下では必要な施設である。また、運営していく中で、利用客のニーズに合わせて形態を変えることが重要である。
- ◇キッズスペースは、子ども専用ではなく、道の駅は平日と休日で利用形態が異なるため、高齢者やドライバー等も利用できるように利用形態を検討してほしい。
- ◇見沼区には4つの地域（春岡、七里、片柳、大砂土東地区）に分かれている。春岡地区のみコミュニティセンターがないため、春おか広場の研修ホールを利用してきた。この研修ホールは狭隘の上老朽化しており、集会等の場所が確保できない課題がある。地域経済活性化拠点には地域の交流施設になることが期待されている。

【凡例】 ○：質問 →：回答 ◇：意見